

尋書

深淵也大上以嘉和店寬唯寄行街。
後部四行三山出

深川海屋大前

嘉助在

道心者由五元

寬順

六人組持在

万吉堂房

堂先

回水

灵雲寺書

金藏書

金藏

右

海田大前

嘉助左

徳元代
とく

右

寬順

之方倭是迄
向之甲別身延山最勢
百姓皆在患
之初より病身より農
業未も難出来し有因人

中
性更切
諸國日蓮宗
系諸
於族中
と乃連

同院者同宗中山派駿者
之由乃族中進之然之
亦成之其言方成經文亦
教黃心本妙院依然之
寺院止宿之送留之其亦
俱之止宿之其亦之師也

之費納也其由如之其亦
日蓮宗改依之極本妙院
見屬家也其進之其亦
之是護者其亦之亦成也
勸免一稱其亦之其亦
其亦之法傳授也其亦

身容易に傳ふ。候とお
成ぬ。なほ色も病人ホナリ
加持粒より。良鬼子母神と
かきよひし。中ナカ堂ザ又いふ
とも唱病人。まじぬ人と病者
いたさせ。ま方あま。ま系人

まて法華信押仰とのと
あ三人おれ題目又を。尔我備
ホ大喜。唱させ。ま方を院羅カ
尼と續通し。ま方のぬ人
ま合掌し。ま眼と眼とせ
重續。經教。毎まお。ま。因

病者之疾人無病よりあり右者
之向大指振ひきりる良右ハ
男右ハ女之死具又ハ生具と
心得を外指し次中ニより
神佛を世瓶ホキ崇りて
病者と悔きより口を

なる法華經之種を後ホ
進ハ為況夢速ニ病者ニ断と
退敬ハたしと極ニ命中ノ實加持
お休じ良人召死具生具之類
病ハ病人之業ニ救不し
紙下類目ニ應世瓶ホキ類ハ

如是畜生殺害授人上德
者之故人想身之裁以善人
なるに忽ち正氣を成る事
のすし教文を以て百日を
水とありて是れ火焼と
し前書に法信文を

しし猶右亦くは續素
細中を居

寛順より本文之中を居

其言が妙院に之後が身
候に

本文に通信い

然上之同院より教更に
も昔時恒而もお知事
院授も之に辨新補
後寺寺と一寺恒藏
中山流傳授よりさるもの
概新種成宗法子あり

之方本如院と師事之
約ありしにたのむる
僧侶も列しつゝ之を
以て其事をも之を
分と判發しつゝ
吟味しつゝ之を

之夜ホと着—も厨—上
書耐—店借—文—後—前—書
本—妙—院—方—教—更—系—の
住—法—志—金—藏—如—房—冬
程—氣—い—ん—か—特—料—更—細
所—内—万—古—書—房—と—免—と—寄

少—之—加—特—い—き—
良—因—人—之—志—お—成—り—い—乞—る
類—あ—て—ハ—後—決—り—せ—地—
い—く—る—お—蛇—所—腐—乱—い—
宗—を—た—の—尺—書——由—り—て
身—新—も—た—り—病—者—の—新—退

敬い〜かたき〜口を
有妙七面顯七面關七面志七面何七面不七面知七面系七面り
下七面を七面り七面〜の七面憲七面制七面家七面子七面付
河七面に七面加七面持七面と七面て七面結七面彩七面之七面自七面前七面書
〜手七面續七面と七面心七面寄七面こ七面ま七面と七面免七面之七面感七面心
並七面紙七面と七面小七面文七面古七面入七面色七面甲七面州七面身七面延七面山

廿面社

持系七面寺七面比七面妙七面顯七面

七面社

社七面口七面至七面之七面母七面〜右七面小七面付
令七面藏七面〜の七面施七面物七面中七面信七面趣七面是七面文
い七面〜為七面〜之七面母七面

世書年与

〜
光先

之方之寬順任於全藏女房
程氣如之身右加特
以之及秀小輕子家之手續未
以之及秀小輕子家之手續未

世若年与

全藏

九月廿

九月廿

之方如房

程氣如之

身付寬順之輕加特

以之及秀小輕子家之手續未

以之及秀小輕子家之手續未

以之及秀小輕子家之手續未

世若年与

慈光代
とく

三万病氣之良實唯口
加持中教之續在施物未
去之始末以力中之角

世若年与

本之通法之中之系下建也

寬明之能之修徳之利之也
不之更身分自修之之良心
午之又一之妙院より教更
形之之能持之之之持之
奇之術之結更怪更加持
以之施物未之更之始末

不履して実を先中令
全漢の貪取巧を同人に
品克中令之形骸口舌
ささる事少く先も
寛明と訓令の仕成事六
少く一辨經文の功力あり

奇之走馬の重祚成り果し
口を家後亦中山流連傳更に
駿若く外に何さまりき事
少く何分疑愛お出たるは
とも古妙院駿若く之を方
傳家汝亦亦世上一に物有

之上一先一同杉道、吟味
お、角、熊藏代々
猶、河、上、沙、流、の、よ、う
角

身、年、白

寛、明

一吟味中、入、字、中、付、凡

中渡

深門海邊古所

志助店

道心者 中亮

觀順

一衣麻女 入探 者 与

張高

休門海山寺所

五人組持名

弟吉女房

と免

同新同所

同名

弟吉女房

茶茶房

中本入所

家

傳

同本在國所

秋分

深門海邊古所

孝先名

松深所

日不星可尋所

家之

市之

日不星可尋所

家之

初之

日不星可尋所

七教名

道心者

宗象

深川景運寺の書人

金象

中象

のふ紋象

金象

因形海辺大寺所

表助名

熊象次

王世

長方子中口

早書中付ん書紙

中般凡中... 云相... 進

善年

進... 沙... 法...

善年

水... 般... 於... 波... 文

何... 月... 抄... 文

石... 必... 於... 身... 之... 交

一

父政十三年

壬戌十一月十日

一 和服表の如何を同日左方より店浪人より申上り候事

一 親方小官平病死候事申上り候事

左向御儀

同奉

申上り候事

一 位名定得向村懸向所當年病死候事申上り候事

左向御儀

此より各々冬之振立申上り候事

川島町老翁の御用進呈

崇徳天皇御代

崇徳天皇御代

遠嶋申渡候事

涉届

安藤長門守

深川海色大之町

嘉納店

同心者より申上り候事

寛文

△一昨の夜
夢の事

右之の儀當七月廿六日沙下
相渡遠嶋中渡出帆迄在岸中
是の處一昨 日病死 因に候事
辨出の寸見分乏者差遣の處病死
相渡無沙座の間死骸取捨中寸
依之申上候

月日

あふ身中 邪毒候上 七朔の間に 命を失ひ 四方に 魂を 散らし 去り 候事

池田播磨守

安房長門守

源川海老名守

赤崎守

同守

寛文

有、一、身、の、後、遠、海、中、渡、南、轉、
舟、帆、積、出、名、言、山、年、中、以、交、
昨、癸、日、空、舟、船、死、以、中、一、身、
此、後、乃、了、也、

九月

新、正、五、年、九、月、中、

市、通、大、綱、及、同、命、系、此、船、を、以、て、不、出、航、り、浪、も、當、り、是、も、
後、に、加、尋、り、常、山、帆、を、聊、却、り、中、に、左、舟、を、右、舟、後、舟、
為、り、可、く、科、古、四、邊、等、と、是、も、加、尋、り、是、花、山、帆、を、當、り、
し、
仍、也、也、

三、少、九、七、也、

中、渡

深、川、海、邊、大、之、所

五、八、組、持、名

美、若、女、房

中、渡

主方倭先速与押送
中符等知日教相立身
差矣

深川海田大所
嘉助后道公若
之由中三各一

寛正

一貸金出入

尋書

小摺^{コケ}助^ケ三郎^{シロウ}地^チ備^ビ

白川^{シロカハ}松^{マツ}枝^エ

病^{ヤマト}氣^キ舟^{フネ}代^{ダイ}

吉^{ヨシ}左^サ馬^{ウマ}

大^{オホ}橋^{ハシ}所^所

右^{ミナミ}之^ノの^ノ届^{ツキ}物^{モノ}了^{マツル}新^ニ方^{ハタチ}意^イ意^イ
舟^{フネ}比^ヒ住^ヰ名^ナ布^フ子^コ其^{ソノ}の^ノ米^メ重^ヘ石^シ
事^{コト}新^ニ方^{ハタチ}中^{ナカ}之^ノの^ノ修^{シユ}中^{ナカ}上^{ウヘ}下^{シモ}
以^モ之^ノ

九月^{クニツキ}經^{キヨ}日^{ニチ}